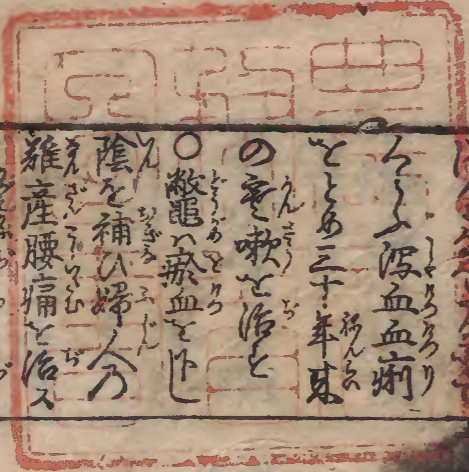


綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり
原本の文字など不明瞭な箇所があり

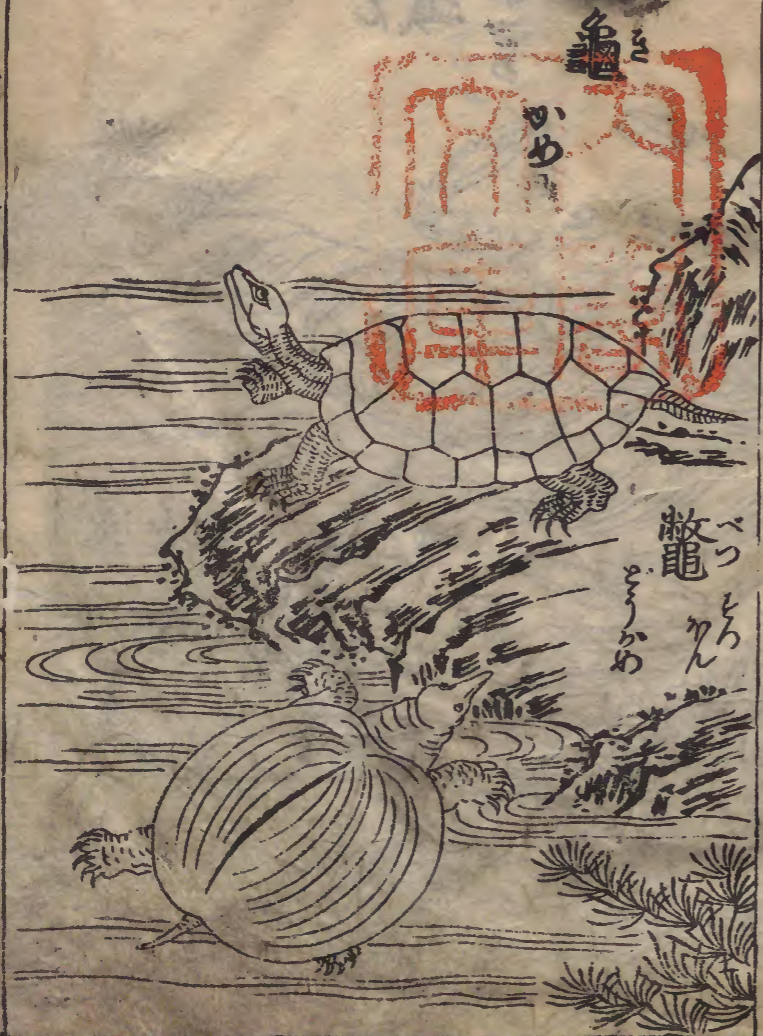


○龜の四肢ひき
 けりて食ふる事
 けりて血血病
 ととも三十年
 の老軟と治と
 ○敵龍の瘕血と
 陰を補ひ婦人
 産産腰痛と治
 ○蟹の特漏と治
 出とるを多く食

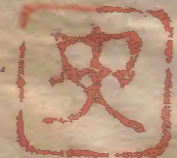
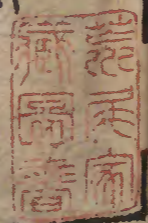
頭書増補訓蒙圖彙卷之十五

蟲介

此部小の野草に生じるところの蟲
 川谷よとむ甲介の虫の類と云ふ



龜



頁書増補川原圖彙十五

へんかいびん瘡瓜

たろと

○蟻の名と其甲

とつへいごらめり

○蟻の名と蟻蜂

とつ小児のつゝ熱

とつ小児のつゝ熱

○螺の瘰癧結核

ひのころ瘰癧氣

とつこのひのころ瘰癧

麻蚕同

○田螺の小便と利

一目の痛と瘰癧

○蟹の血とさんど

筋とよしあひ氣

とつ一食と消と

とつ一食と消と

て行て

蟬郭索同石蟹

蟻蛸

○毛龜の陽道とた

すけ陰血とた

精氣とつ瘰癧弱

と瘰癧

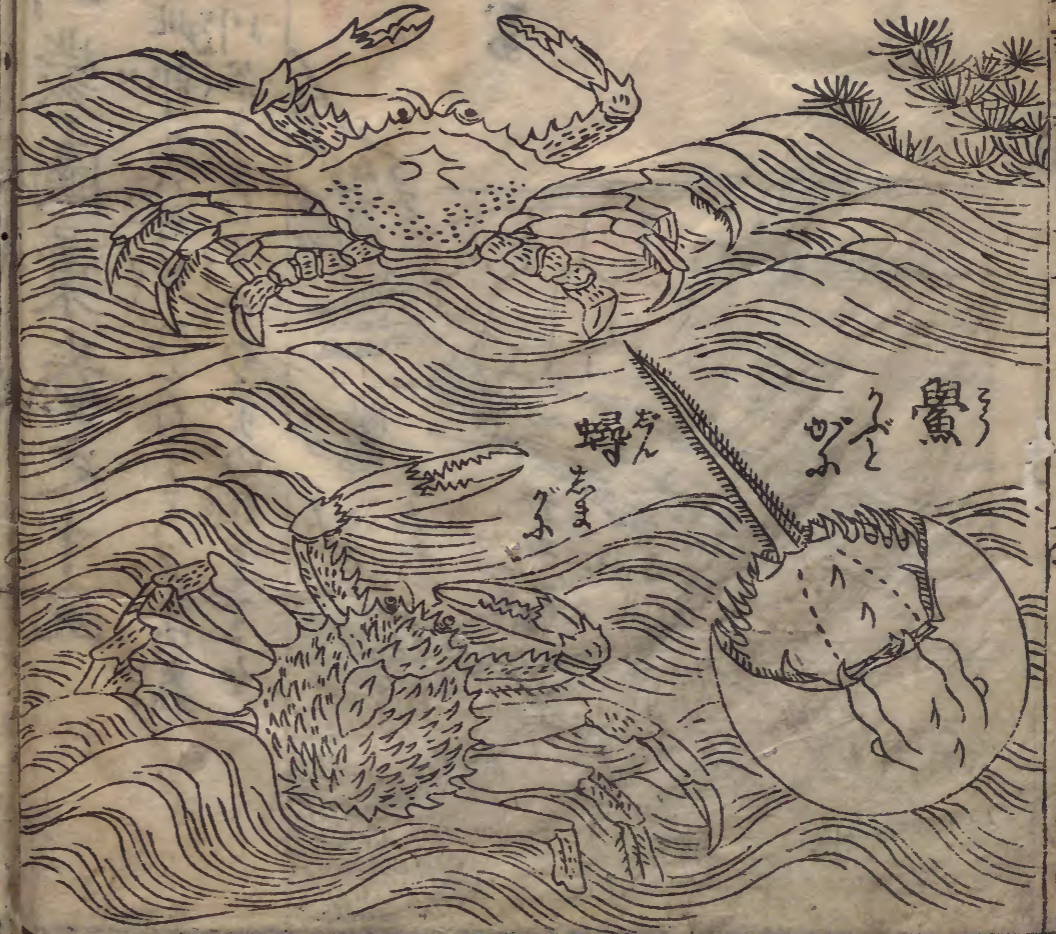
○蜘蛛の目瓜とら

つふ水と下

湯瓜やら瘰癧とら

大小便と利酒毒

蟻



蟹

蟻

田螺

螺



蟹

螺

と解と海蛸尖
 螺蛸蛸はら
 ○蛤の五豚とて胃
 一酒とて胃
 とひとて胃の血
 塊や
 ○蚌の五豚とて
 一酒とて胃
 一酒とて胃
 と術と陽とて
 ○蛸の胃はひら
 乳とて胃
 わさつふし小使
 と利脚氣は毒

と治と
 ○蚌の湯とて熱
 とのたれ酒毒と解
 一貝のわさつふし
 帯りふし 蚌蚌同
 馬刀
 ○貝の汁とて胃
 一貝の汁とて胃
 に合し煮て食ん
 痛と治と海肥同
 ○煙の虚とて胃
 ひ病と治と胸中
 の熱とて胃
 ○蛸の虚損と治



中々そののけしやく
くく酒後の熱と
さわと
○鏡の精氣を一身
と移く一五臟と
月夜ゆきふり
風熱を換す
○車渠の伸とや虎
緒の茶毒と解と
能毒あつひと
○淡菜の虚勞精と
くく腰痛血氣帯
下けくく食え
か人の髪ぬる

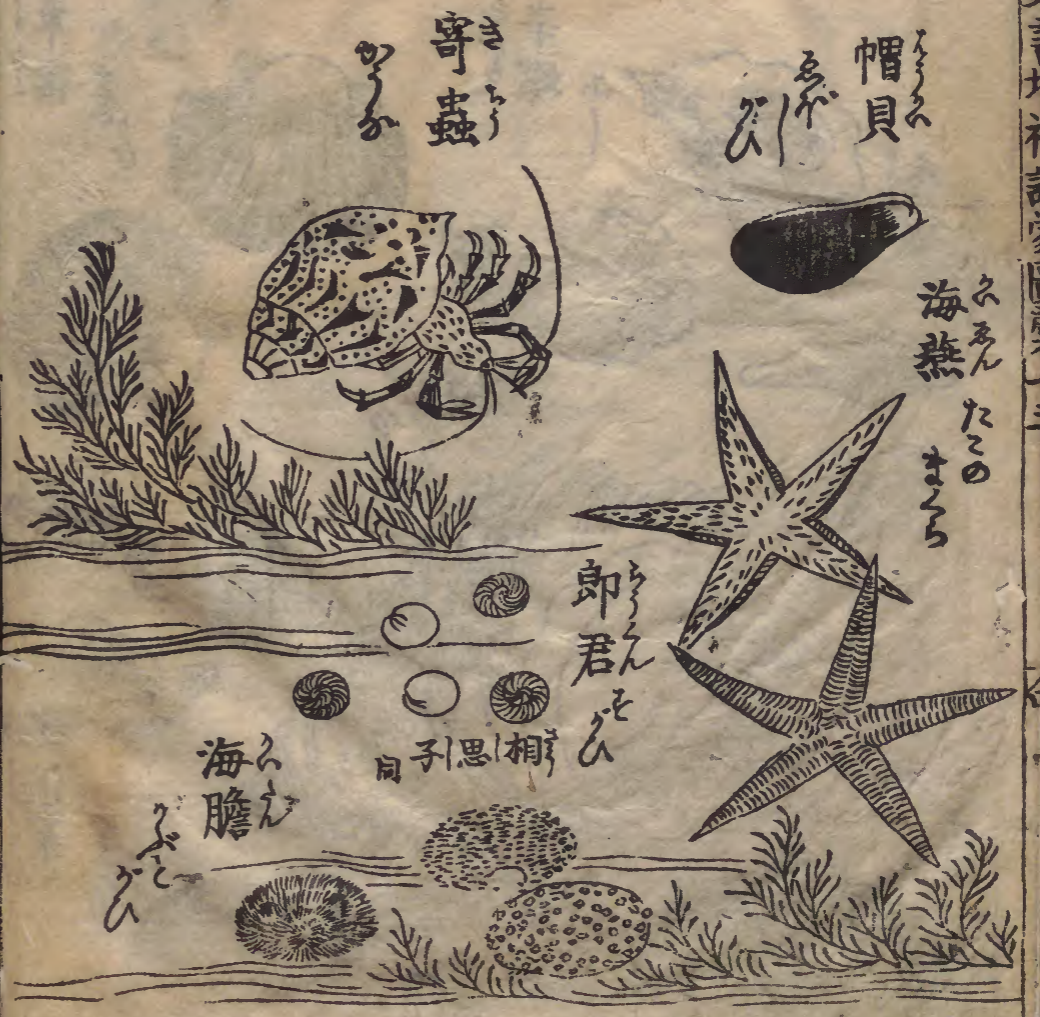
○辛螺の飛戸遊
虫ふ生けく食ふ
○梭尾螺味考
法螺貝もかく
○玉珧の巧用蚌
に同一知く食
すをハ風氣を
と蠍雖もく
○帽貝の帽
ふに竹う紙毒
らぞ
○海燕の返湿よわ



貝書物神話家圖彙十五

てしき身いし
 汁小煮てくし
 一名陽遂足
 海盤ともいふ
 ○寄蟲の類を
 はし心志を
 あつと
 ○海膽の毒を
 たつぎのうを
 ○郎君の婦人の
 めんじんふひ
 とまひまるの
 中へまらう

○螢の府岡草の
 爛竹の根に
 かつりたる夏
 大虫と氣と
 とつりたる
 ○蚕の蟋蟀も
 蜻蛉ともいふ
 蝗に似たる
 の末いづる
 ○蟻の土中の
 一名土約又石
 ともいふ
 ○蟻の



頁書曾浦川栄園集十五

頭書坪神詩家園集十五

づ仲夏にはいづ
 らん宛大層とく
 ○絡線いさうく
 とももの二名胎
 くらんつとらふ
 此さうひかり
 ○蟻蚋二名蟹
 蝨しつふとく
 ひし俗ふとく
 ころむい
 ○寵馬二名寵
 雞らふとく丸く
 脚長し寵のや
 たらふとく



○蜻蛉い六足四の
 つらふとく
 んでりふとく
 食ふとく
 まふとく
 ○赤卒いどんがら
 の久赤とりのあり
 俗のわんまとも
 黒やふとく喉痺
 とく
 ○皇久蝨い稲生
 とく
 ○蜻蛉二名各蝨
 斯いふとく



蜻蛉の二名各蝨
 斯いふとく

○蝶ハ登化して
 くる又変化して蝶
 なる風蝶ハあが
 たり胡蝶蛺蝶野
 蛾同
 ○蠶ハ糸足ふて繩
 とるからととと
 して虫ハ小蠶の
 字とく爛灰の門
 よるせと
 ○金龜ハ大ニカ豆
 のごとく夏草
 乃中にせと
 ○燈蛾ハ燈とて



ふと飛蛾ハ燭蛾
 ともひひらひ
 ○馬蜂ハ虫の大き
 のちうととと
 ○叩頭ハととと
 ひとととと虫
 ととと
 ○蛤ハ七月の末
 ととととととと
 若のてととと
 せと
 ○金鐘ハ一名金鏡
 兜も月鈴も
 つと



○變金虫くわんちゆう多く青く
つゝの青ふゆらうら
てを多く

○斑蝥はんぼう人ふ毒
かむ斑猫はんねこも書
○紺螿こんせう氷上こおりに
虫とる紺蝶こんてつ同

○靱鬚きんしゆう二名天牛
ひらる目の赤ふ二
角あり

○蓑虫さむし一名木螺
結草むすひくさと入

○蜂ちゆう腐菌化ふきんか
てりる毒尾どくびあり

○毒虫どくちゆうのうらやして木
中ちゆうして木又またあか
らふらふいふいふのの蝸かき

○蠟ろうと入

○蟬せみのわのわかかままく
りありりあり蝓しゆう同

○蟬せみの地虫ちちゆう化かして
るるはらはらううてて鳴なの
んで食くふふ

○蝸かきの池澤草樹いけさわくさくの
あふあふせせととのの螺ら



變金虫くわんちゆう
くわんちゆう



紺螿こんせう
こんせう

靱鬚きんしゆう
きんしゆう

斑蝥はんぼう
はんぼう



蓑虫さむし
さむし

蜂ちゆう
ちゆう

蠟ろう
ろう

毒虫どくちゆう
どくちゆう



蟬せみ
せみ

蝸かき
かき
蝸かき同



豆書抄神詠集卷之五

にゆく久白く角を
○虫へ大分の瓜本
室とつてつと瓜
つく多々多々
つてつてつて

○蛾の蠶化して蛾
どるの蛾の形也
○蠶蟻のさそり又
蝶も細腰蜂と
も蒲茸もも俗
ふの似我蜂

○氣蟻一名行夜
つとつとつとつと
つとつとつとつと
つとつとつとつと

○蚋の田野小生
面の赤は飛んで人
の肌とすと其わと
愈々

○蚊の子を虫化して
なり約脚のつとつと
○子子のたつり水
さつりてせと化し
て蚊とある一名釘
倒虫

○蛙の惣名かりね
どを色りて青ふ
紋のなまなかと云
か、なまなかと水

虫のり



蛾のり



氣蟻のり

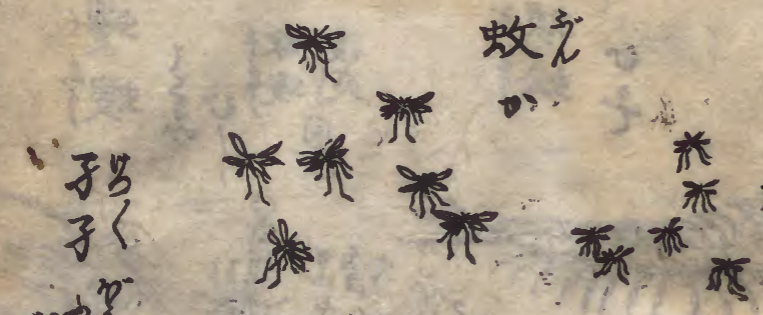


蠶蟻のり



蚋のり

蚊のり



蝌蚪のり



○蜘蛛のひもを
 て足で毒あり
 人の耳に入ると
 粉脳とよそへ
 ○百足のせせ七公
 及黒一足百足の
 一名馬蛭
 ○蟻の五ふりく
 生し陽気と死
 蟻のたつて風吹
 春のあまきと
 ぬる
 ○蛇の腹中なる
 かた虫かろ蛭同
 脾胃の湿熱より
 せし
 ○蛆の腐肉のあま
 にせど魚の畜の
 肉のうちにせど那
 の中にもよく同
 ○蟻の樹根の
 おく樹根の
 法の中にせど
 うく及白一蟻
 同又小く黒とあり
 ○蚯蚓のふよと
 へんをたの夜
 ○蜘蛛の各蜘蛛



頁世の曾補川...

虫書...

虫とつゝ又の魚婦

ともいふ

○蟬ハ書中の白魚

カノ一名蛎と云俗

に蠶魚といふ

○蚕ハ床下中

ハミト

○孔虫ハの身小

作小もさく又をふ

あつちからあつち

○蟻ハ大なるハ蟻

といふ小と蟻といふ

つゝ若長の義あり

故ハ義の字とく

○蜘蛛ハ

と花蜘蛛といふ

とも蜘蛛といふ

一の大昊くもと

わさかじとびや

○蚕蠶ハ糸を吐く

二之び俯一三之び

記二十七日ハ一七老

横帝の元妃西陵

氏嫁て蚕蠶とヤ

多入て糸ハ他

○蛭蠶ハ一蠶王

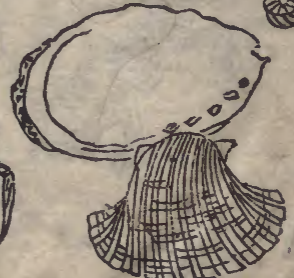
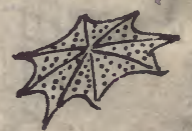
とつて糸ハ

蠶虫同

神言

殼

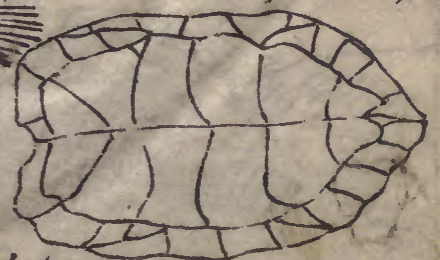
から



甲

蛎

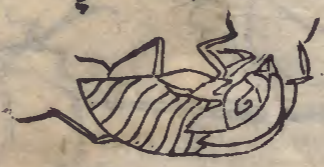
もぬけ



介

蟬蛎

うのせ



蘭

まゆ



蛭蠶

鼓蟲

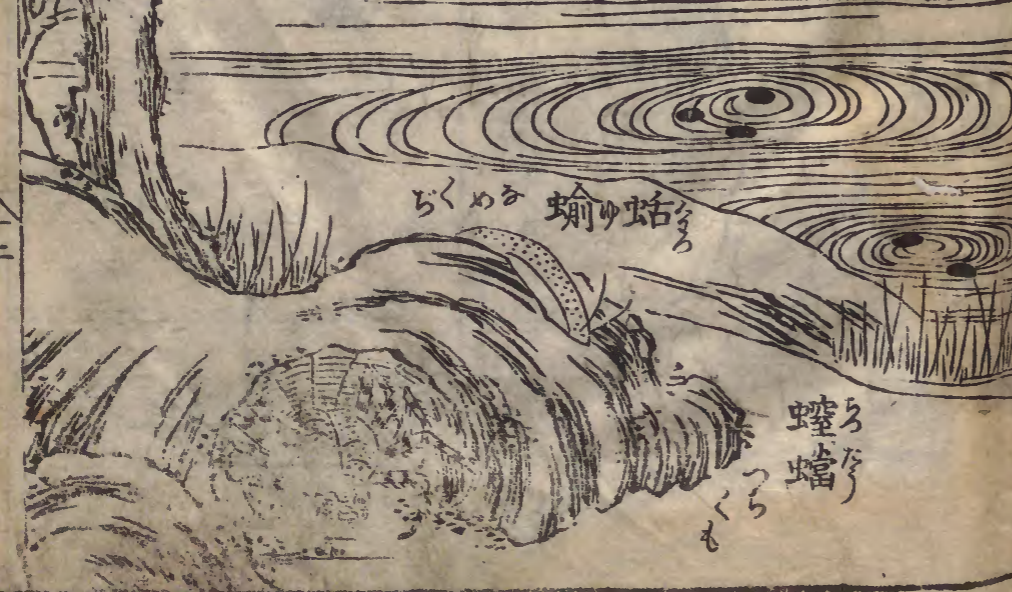
ひく

蛭蠶



蛭蠶

蛭蠶



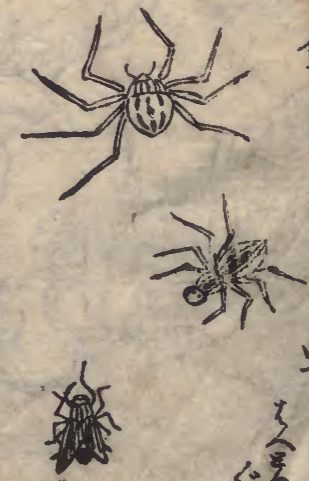
神言

本草綱目卷之九 虫部 蜘蛛

○土蠶いこのりの蛭ひらふつはて尺
莫も多た頭あたま耳みみのうら
俗よにいふまるるはい蛭
○本もと雨あめのう木き竹たけのうを
とと垂たれたりくすくりく
ととくく灰はい及およびび多たりり壁か
孔あな同おな俗よにいふまるるはい小こと
○水みづ蚕いのな名な水みづ蠶いと
いいふまるるはい中なにいる
ととくくとと月つき胎たに
つつくくりり
○水みづ馬うまのな名な水みづ電でんと
いいふまるるはい水みづ上うにいるる水みづ

○蠶いのな名な守まも官くわん
とといいふまるるはいとと殺ころすす官くわん
女めのう臂うでふみるる男おとこ
とと記しすすのなままいいととるる
かかららいいてていいぐぐととるる
てて守まも官くわんのう壁か虎こ
蠶い虎こ並ならびび同おな
○蛭い場ばへへ土つち中なにいるる
毒どくのう石いしおおもも山やま彦ひこ

壁か錢せん い い
蠶い虎こ い い



雀すずめ癩しかみ

とといいふまるるはいたたい



蝶ちょう蛸しやう

蛭い い

とといいふまるるはい



本草綱目卷之九 虫部 蛇

子かへび同
 ○滑蟲一名蜚蠊
 此のへびの毒を多
 補ふ
 ○殻の蚌螺の殻のう
 の殻を地路のうを
 的粉と云々
 いのふを甲香と云
 厭とも書たり
 腹の貝のうを
 圓の痛は
 みの貝のうを牡蠣と
 云々
 ○蛇の蛇尻のひのき
 カヤの蛇尻の蛇尻
 黒後子と酒を用
 之ハ雅産小
 蟬蛻の蟬退とも
 たの粉やて油や
 とは耳たはれ付の
 ○甲の龜の甲がら
 かへびの毒を
 故と云々
 かんまるる
 ト
 との腎の補ひ
 と消と又敷
 色散腫と消と



日本書紀卷之五十五
 卷之五十五

子かへび同
 ○滑蟲一名蜚蠊
 此のへびの毒を多
 補ふ
 ○殻の蚌螺の殻のう
 の殻を地路のうを
 的粉と云々
 いのふを甲香と云
 厭とも書たり
 腹の貝のうを
 圓の痛は
 みの貝のうを牡蠣と
 云々
 ○蛇の蛇尻のひのき
 カヤの蛇尻の蛇尻
 黒後子と酒を用
 之ハ雅産小
 蟬蛻の蟬退とも
 たの粉やて油や
 とは耳たはれ付の
 ○甲の龜の甲がら
 かへびの毒を
 故と云々
 かんまるる
 ト
 との腎の補ひ
 と消と又敷
 色散腫と消と



